

## 仮想世界を歩く 新感覚アトラクション

VR DIVEとは、座席など定位置で体験するものと異なり、仮想空間内を歩きながら体験するVRアトラクション。プレイヤーはVRヘッドセットを着用し、4方向のエリアを歩き回る。コントローラーは仮想空間内では懐中電灯の役割を果たし、プレイヤーが見たいところを照らすことができる。



VR DIVE

# VR DIVE ダムド・タワー

ホスピタルサイト

THE DAMNED TOWER: HOSPITAL SITE

20日～12月24日 名古屋テレビ塔

映画でもない、お化け屋敷でもない。バーチャルリアリティー（VR、仮想現実）を使った新時代の映像体験、VR DIVE「ダムド・タワー ホスピタルサイト」（中日新聞社など主催）が20日～12月24日、名古屋・栄の名古屋テレビ塔で開かれる。企画・プロデュース・総合演出は映画「リング」を手掛けた映画プロデューサー仙頭武則さん(57)。仮想空間で次々に遭遇する怪現象。脳を貫く刺激にあなたは耐えられるか。（細井卓也）

悪夢への扉が開く

## 追い詰められて…決死の大ジャンプ

小雨降る某日。名古屋テレビ塔に「被験者」たちが続々と集まってきた。ダムド・タワーの先行体験会「0号被験」が行われるというのだ。

会場は黒いパネルに仕切られた四四方の部屋。頭上にセンサーらしき装置が数台、そして頭に取り付けられたVR装置、モニターがあるだけ。イベント会場にしては随分と狭い。被験者たちが足を踏み入れる仮想空間は、ある病が蔓延した近未来の島国。二百七階建て超高層ビルにある「高天原病院」に患者として運び込まれることになる。

最初の被験者はイベントのアンバサダーを務める愛知県豊橋市出身の人気コスプレイヤー桃月なしこさん(三三)だ。花柄のワンピースに映える笑顔。ダムド(忌まわしい)な出来事に出くわすとは、まだ知らない。「何これ、やだあー」VR装置を着けた桃月さんが悲鳴を上げながら、狭いスペースでうろたえている。しばらくして手に持つ明かりが小刻みに震え始めた。「本能がそちらに行く



本紙  
細井記者

## 震える手「本能がそちらに行くなど…」

など申しております。もはや泣き声。歩みを止めた桃月さんに一体何が起きているのか。

筆者も被験した。病院の受付からナースに導かれて院内を巡る。張り詰めた空気感。モンスターが出たわけではないのに、何かの気配に足がすくんで進めない。「来た!」。コンピュータグラフィックス(CG)だと分かっていると思わず「うわあ」と声が出る。ヘッドホンから聞こえる不気味な声にますます不安をかき立てられていく。

追い詰められた筆者は空間から脱出するべく決死の大ジャンプ。胸ポケットのペンやメモ帳が飛び出し、床に散らばった。被験時間は十分程度だったが、とてつもなく長い悪夢を見たような感覚になった。何がそんなにすごいのか? あなたもその世界に入れば分かる。ただし、中毒の「病」には注意を。



人気  
コスプレイヤー  
桃月なしこさん

桃月なしこさんと本紙記者が「被験」

WARNING  
管理区域  
(X13使用施設)

映画「リング」プロデューサー

## 総合演出・仙頭武則さんに聞く

### 新しい映像体験の幕開け

ダムド・タワーの総合演出を担当した仙頭武則さんに映像制作に込めた思いを聞いた。

—今回、Jホラーの要素は盛り込まれているのか。

僕がこれまでやってきたJホラーとは一線を引かせてもらった。演出技法として要素を取り入れてはいるが、ダムド・タワーはホラーではない。新しい映像体験だ。血も出てこないし、怖いのは二の次。ただ、プロの映画屋じゃないとできないという自負を持って作った。

—こだわった表現は。

コンピューターグラフィックス(CG)や最新技術に頼らず、アトラクション、エンター

テインメントとして、どう展開させるかに頭を悩ませた。ダムド・タワーの世界は現実と仮想空間の境界。原始と未来、科学と宗教の要素も取り込んで、絶えず二律背反の世界を見せている。

CGについて言えば、あえてCGと分かるようにしてある。本物と同じリアルな世界を作ったわけではないから。CGが体を通り抜けたら、常識的な見方から徐々におかしくなるように見せたり。そうして不安感を募らせる。音にも徹底的にこだわっている。種明かしはできないが、場面ごとに場違いな音を流している。気が付くかどうか別



せんとう・たけのり 1961年、横浜市出身。映画プロデューサーとして「リング」などヒット作品のほか、カンヌ国際映画祭で高い評価を得た「萌(もえ)の朱雀」「ユリイカ」などを手掛けた。監督、脚本作品もある。2009年から名古屋学芸大映像メディア学科教授。

として、耳に入れば仮想の世界から現実へ引き寄せられる妙な気分になるはずだ。

—VRの効果は?

これまでのVRを使ったアトラクションはじっとしたまま見るものだった。それが新たな技術で、装置を着けたまま自ら動けるようになったことが大きい。360度見回せるようになると、後ろから何か近づいてくるような表現も簡単にできる。映画だとカットを割らないとで

きない。音で誘導すれば、VRを見ている人が自ら振り向いてカット割りをしてくれる。これが新しい映像になる。

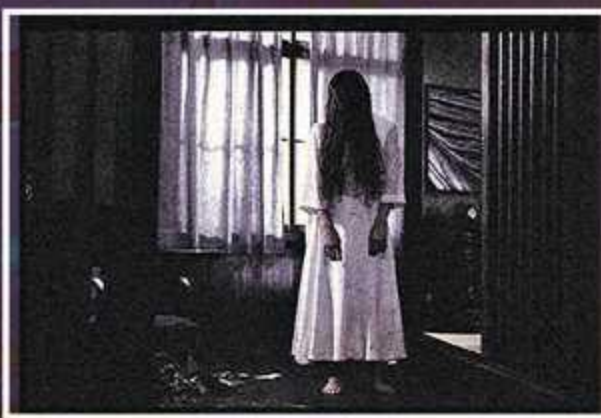
—今後の映像の可能性を。

映画に限界を感じていた僕の中に光明が差した。半年もすれば、もっと新しいものが出てくるだろうが、今回の作品が、VRを使った新しい映像の最初だと言われるようにしたい。東京ではなく、しかも名古屋で、それができたと思っている。

## GUIDE

会期 20日(土)～12月24日(月・休)。平日午後1～10時。土日祝日午前10時～午後10時  
会場 名古屋テレビ塔2・3階  
料金 1500円(当日券のみ)※12歳以下は利用不可  
企画・プロデュース・総合演出 仙頭武則(映画「女優霊」「リング」「らせん」プロデューサー/映画「死国」脚本)  
監修 高橋洋(映画「女優霊」「リング」「リング2」「リング0

パースデイ」脚本/映画「呪怨」シリーズ監修/愛知淑徳大創造表現学科教授)  
主催 中日新聞社、テレビ愛知、びあ  
制作協力 サン電子  
宣伝協力 TOHOマーケティング  
協賛 TSUKUMO  
問い合わせ 中日新聞社会事業部＝電052(221)0955  
公式サイト www.damnedtower.com



©1998「リング」「らせん」製作委員会

ダムド・タワー開催記念

映画「リング」来月5日放送

ダムド・タワーの開催を記念して、1998年に上映された映画「リング」を、テレビ愛知で11月5日(月)午前2時35分から放送する。